

公表

事業所における自己評価総括表

児童発達支援

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス いろは		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 20 日		～ 令和 8 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 家庭	(回答者数) 14 家庭
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 20 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 名	(回答者数) 7 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間で連携が取れている(チームでの支援ができている)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回いろは会議を設定。スタッフ間で問題を提起し対応策についての協議や支援内容の共通認識を図っている。 LINEWORKSを活用し、保護者からの連絡や確認事項などの共有を行っている 	相談支援事業所含め、パート職員との情報共有の効果的な方法を模索し、実践、検証を行い今あるツールを活用して仕組みをつくる
2	早いうちから小集団の中でのADL支援ができています	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の習得を一人一人の成長に合わせて対応している 2～6人程度の小集団の中で他児とのかかわり方などをロールプレイを通して習得できるよう対応している 	特性によって、対応が難しい児童に対しても、トライ&エラーを繰り返すことで、子どもたちも職員も学びや対応を深めることができる環境(スーパーバイズ)を整えていく
3	保護者とのコミュニケーションが取れている	<ul style="list-style-type: none"> できたこと、できなかったこと、その時のどう対応したか(工夫や手法)など送迎時に伝えている LINEを活用し、活動中の動画や写真などを送り、事業所での取り組み内容や様子を伝え共有している 	保護者によって方法を検討したうえで、個別参観の機会をつくっていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応の周知が十分にできていない	避難訓練等を実施し、おたよりなどで写真等を掲載してはいるが、十分に伝わっていない。また、具体的な避難場所などが伝えられていなかった	火災・地震・水害など想定されるパターンごとに避難の動きや連絡手段など、BCPや安全計画を踏まえた資料を作成しご家族への配布やHPIにアップするなど伝える手段も含め検討していく
2	保護者同士がつながる機会の設定ができていない	事前に保護者へ調査を行い、その集計結果をもとに保護者会の日程やテーマなどを決定・案内しているが、参加者が少ない。また、きょうだい含めご家族と一緒に参加できる機会として活動公開日を設定しているが、あいさつ程度でとどまり、つながる・交流する機会にまではなっていない	保護者会・活動公開日の設定は継続しつつ、少人数のサロンの開催も検討する 保護者会など全体の場への参加が難しいご家族は、意図的につながることが効果的だと思うご家族2組程度に声をかけ、療育参観の機会をつくるなど検討する
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その地域で他の子どもと交流する機会は少ない	公園へのお出かけで地域のお子さんと一緒に遊ぶ機会もあるが、多くはない。	連携先の幼稚園等が交流の機会の提案を快く承諾してくださっているので、今後日程調整などを行っていく。

公表

事業所における自己評価結果

児童発達支援

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス いろは
------	-----------------------

公表日 2026年 3月 25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		子どもたちの遊びや療育(活動)内容に応じて部屋わけし、スペースを確保している。	ハード面はどうにもならないが、整理整頓を適宜行うことで環境を整えている
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・ほぼ適切であるが、一時的に手薄になることがある。それでも、役割分担して回っていると思う。 ・送迎などで不足の場合がある。 ・状況によって少ない配置の時もあるが、みんなでカバーして対応できているのがとても良いと思う。	時間帯によって配置が足りないと感じることが課題。余裕のある配置が課題ではある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	エレベーターの開閉時間が短いので、車いすでの移動が大変。換まりそうになる事がある。段差も高さがある。越えられないわけではないが段差はある。本やおもちゃは自衛したり、荷物整理の棚は置き方の目安になるイラストシートで対応している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		狭さはあるが、その中で出来るような活動を提供している	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		事務所は善替え・お昼環のみではあるが、他の部屋は目的に応じて使用可	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		職員間で、話し合いをしながら取り組んでいる。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		支援会議、いろは会議にて月4回程度の意見交換、協議を行い、提案があったことについては試行し取り組んでいる	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		第三者委員会は設置していません
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		年間研修スケジュールを作成し実施している。また、経験年数や委員の担当により、外部研修や連絡会への参加を促している	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページで公表し、保護者には印刷して渡し周知している	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		契約時又はプランの見直しの際にアセスメントを行い、職員とも共有し分析、作成している	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		個別支援会議の中で意見交換している	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別支援計画書を一つのファイルにまとめいつでも確認しやすいように工夫している	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	標準化されたツールは活用していないが、様々な視点からの意見を集約して状況把握している	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		優先順位も含め、利用日数に応じた内容検討を行い作成している	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		基本は担当が立案するが、他のスタッフから意見をもらい役割分担含め共有できている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		年齢的にも、くり返し活動を提供することで定着につなげている。曜日で活動内容(種類)・担当を決めているが、個人に合わせてレベルやねらいを変えて提供している	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		こどもに必要な課題を踏まえて、個別と集団のバランスを検討しながら作成している	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	外出や行事などは企画書を作成し前日までにLINEWORKSを活用し共有・確認している。また支援が偏らないように担当を決め、当日の流れなどを打ち合わせ取り組んでいる。	必ず、というわけではない(共有できていない部分もあった)ので他の情報共有ツールを活用しながら取り組んでいく
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その都度、又は夕方(支援記録記入の際)に情報共有を行っている。	必ず、というわけではないので他の情報共有ツールを活用しながら取り組んでいく
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援会議(週1回程度)の際に、支援記録で振り返り確認、検証等を行っている	職員によって、気づきの質や記録のスキルに差があるが、経験を積み中で高めることができるよう、学びの機会を持つことができていることが課題
	23 定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		支援会議(週1回程度)の中で意見交換などしながら見直しを行っている	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本児童発達支援管理責任者が出席しているが、事前に各職員からほ意見や児童の様子を把握したうえで参加している	支援(療育)活動に支障のない範囲で、他の直接職員の会議参加を積極的に促していく
	25 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		相談支援事業所、学校(校長・担任・教育支援コーディネーター)、発達センター、保健師など対象児童に必要な関係機関との連携を重視している	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		幼稚園等とは送迎時に様子を共有したり、情報提供書を作成したりしている。幼稚園等での様子も踏まえ、相談支援事業所にも相談しながら、お子さんに合わせて、日数調整、他事業所への移行、卒業等について保護者への促しを行っている	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		学校からの依頼もあり、情報提供書を作成し保護者を通じて渡している。	サポートブックの活用も視野に入れ、事業所から自発的に作成することも検討したい
	28 (28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	未回答1	主に児発管が情報収集や経過報告などを行っている。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	未回答1	日常の中で公園に出かけた際関わることはある	保育園等とは交流が少なく、機会があればとは思う
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時、お迎えの際などに伝えたり、相談、面談時に伝えてはいたが、今年度からLINEを導入し、療育の様子など動画や写真などで共有する機会が増えた。	保護者によっては反応が薄かったり、本音をなかなか話さない(話したくない)方との共通理解が難しいところはある
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			ペアレントメンター制度を活用し、保護者にしかわからない悩みや情報共有する機会をつくる	
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に、重要事項説明書・契約内容・支援プログラム等について説明を行っている	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		年齢的にも意思の尊重は難しく、保護者の意向が強くなるが、その中でも子どもにとってどうなのかを考えての支援を行っている	ご家族の意向が、子ども主体ではないこともあるため、家族支援について職員間での共通認識を話し合うことも随時必要

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		定期的ではなく、随時その時に行っている	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			今年度は開催できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら多くの方に参加してもらえるかが課題。 ・きょうだい同士での交流の機会をつくりたい
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		その都度検討、対応している	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月1日におたよりを発行し、活動内容（1か月の行事予定）をホームページにアップしている。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			たまに連絡帳の入れ間違いなどがあるので心がける
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	合同での避難訓練の実施や、隣接の施設への訪問（ハロウィン、クリスマス）などを行っている。	マンションの一室のため、招待することは難しいが、地域行事と一緒にできる機会があればいいと思う。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			具体的な場面に応じての避難場所や流れなどは、保護者への十分な周知はできていないと思う
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			私たち自身、地震の体験がなく被災時のイメージがでず危機的状況の想定が甘く意識が薄いと思う。具体的なシュミレーションが必要だと感じている。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		予防接種については、保護者からの伝達で確認している。服薬は飲み忘れがないように所定の場所に掲示・保管し、職員会で声を掛け合い情報共有している。	アセスメント時に確認は行っているが、保護者判断で伝えられておらず、後から知ることもある
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		指示書まではもらわず、アセスメント時のご家族からの指示や情報共有で対応している。	アセスメント時に確認は行っているが、保護者判断で伝えられておらず、後から知ることもある
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画を作成していることは重説にも記載してお伝えしている。特に、夏の女児の服装についてはご協力をお願いしている。	しかし、その内容を事細かに説明まではしておらず周知には至っていない。
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットがあった際には様式に記入し法人内で回覧している。年に1回は職員研修の中で分析報告を行っている。	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		委員会を設置し協議を行う。また、虐待研修会などに参加し、事業所内職員研修（伝達研修）を行っている。	
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			なにが身体拘束にあたるのか、職員間でも共通認識は必要かも→研修の中で確認した	